

京都大学 大学院工学研究科・工学部
概要 2025

京都大学

大学院工学研究科・工学部

概要 2025



編集・発行

京都大学 工学研究科・工学部 広報委員会

京都大学桂地区（工学研究科）事務部 総務課 企画広報掛

〒615-8530 京都市西京区京都大学桂

TEL : 075-383-2010 <https://www.t.kyoto-u.ac.jp/>

令和 7 年 7 月発行



京都大学 工学部・大学院工学研究科 Web サイト



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

目 次

1	京大工学の理念・ビジョン	2
2	新しい動き	3
3	寄附講座・産学共同講座	8
4	沿革	9
5	組織	11
6	工学部の学科	13
7	工学研究科の専攻	14
8	附属教育研究施設等	18
9	国際交流の状況	21
10	京大工学基金のご紹介	23
11	工学部・工学研究科の同窓会	23
12	財政状況	24
	データ	25
	アクセスマップ	29



工学研究科Webサイト
「動画で見る工学」



1 京大工学の理念・ビジョン

京都大学は「自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献する」ことを目的とし、基本理念を定めています。その基本理念を実現するために、京都大学大学院工学研究科・工学部の理念・目標とビジョンを以下の様に定めます。

京都大学大学院工学研究科・工学部の理念と目標

● 理 念

学問の本質は真理の探求である。

その中にあって、工学は人類の生活に直接・間接に関与する学術分野を担うものであり、分野の性格上、地球社会の永続的な発展と文化の創造に対して大きな責任を負っている。

京都大学大学院工学研究科・工学部は、上の認識のもとで、学問の基礎や原理を重視して自然環境と調和のとれた科学技術の発展を図るとともに、高度の専門能力と高い倫理性、ならびに豊かな教養と個性を兼ね備えた人材を育成する。

このような研究・教育を進めるにあたっては、地域社会との連携と国際交流の推進に留意しつつ、研究・教育組織の自治と個々人の人権を尊重して研究科・学部の運営を行い、社会的な説明責任に応えるべく可能な限りの努力をする。

● 目 標

工学研究科・工学部は、工学のあり方と部局としての使命を次のように考える。

上に述べた理念を使命とし、構成員個々の「主体性」を尊重する「自由の学風」を継承しつつ達成することが、工学研究科・工学部の基本的目標であり、より具体的には自由闊達な知的活動から生み出される知と技術の創造とその継承を目指すことである。

京都大学大学院工学研究科・工学部のビジョン

課題に対処し、未来を築く

研究 基礎研究と応用研究を一体化し、課題に対処する

基礎研究と応用研究を共に重視し、誰も考えつかなかった「ものづくり」、環境にやさしく災害に強い「まちづくり」を実現する科学技術を創出します。技術開発を通じて課題に対処し、持続可能な社会の実現に貢献します。

教育 研究を通じて考える力を鍛える

「自由の学風」の伝統のもと、個々の主体性を尊重し、互いに切磋琢磨し、対話を重視して考える力を鍛えます。研究を通じて自ら課題を見出し解決する力を獲得する教育を行います。

人材育成と産官学連携 専門分野の壁を超えて協働する

個別の専門性と他領域の知を統合し、ブレークスルーを生み出す研究者・技術者を育成します。知を統合し、協働する環境を生み出すため、寄附講座・産学共同講座・社会実装コンソーシアム等を積極的に設置します。

多様性 DEIB を推進する

性別や国籍、年齢等に関わらず、異なる視点や経験、価値観を持つ多様な人々が集う環境を大切にし、学びと研究を活性化させます。ジェンダー平等を目指し、男女共同参画の取り組みを推進します。

DEIB…ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン・ピロギング



立川康人
大学院工学研究科長・工学部長
(社会基盤工学専攻 教授)

2 京大工学の新しい動き

京都大学工学部・工学研究科では、教育研究の発展に資する独自の施策を積極的に実施するとともに、日々革新的な研究が行われています。その一部を紹介します。

桂図書館を起点とした テクノサイエンスヒル桂構想の実現

工学研究科では、桂図書館、総合研究推進本部と連携し、テクノサイエンスヒル桂構想の実現に向けて取り組んでいます。具体的には、“研究支援機能を備えた新しい図書館”をコンセプトとした桂図書館から、「展示」、「WEB/ 動画」、「試験実装」、「イベント」を4本柱として桂キャンパスの研究シーズを発信し、イノベーション創出基盤の創成、産学連携ネットワークの構築を図っています。

イベントでは令和4年度より若手研究者や女性研究者に着目した産学連携ネットワークイベントを年2回程度開催しており、令和6年度はバイオ技術を活用した社会変革技術（BX：バイオトランスフォーメーション）をテーマとする「BX 桂」、レジリエントな社会の実現を加速する革新的技術をテーマとする「Resilience 桂」を開催しました。前者では、レッドバイオ（医療・健康）、ホワイトバイオ（バイオものづくり）、グリーンバイオ（農林水産業等）の分野でBXに関わる企業、京都大学の次世代研究者を招き、研究発表、オープンディスカッション、展示を行い、後者では、災害対応、電力・エネルギー、材料の分野での企業、大学における革新的な技術に着目した研究発表、展示を行いました。



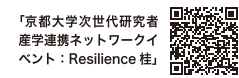
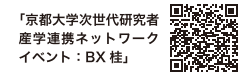
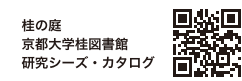
「BX 桂」イベントチラシ



「BX 桂」展示の様子



「Resilience 桂」イベントチラシ



学部教育のさらなる向上

工学部独自のFD（Faculty Development）活動として、工学部教育シンポジウムを開催しています。令和6年度は、「考える・創出するために変わる工学教育」をテーマとし、令和7年度以降の初期情報教育や、大学教育が現代において直面する喫緊の課題として「生成AIとの共栄とそのためのリテラシーについて」、「女子中高生やその保護者・教師への工学の魅力を伝える方策について」というテーマで情報交換、討論を行いました。



シンポジウムのパネルディスカッションの様子

工学部を目指す受験生への魅力発信

一般社団法人関西科学塾コンソーシアムの共同事業として、女子中高生に理系進路の魅力を伝える第19回「女子中高生のための関西科学塾」を本学が幹事校として開催しました。令和6年7月の京都大学桂キャンパスでの開催を皮切りに、大阪公立大学、大阪大学、神戸大学、奈良女子大学、民間企業等でイベントを開催し、京都大学での開催イベントでは、大学や企業で活躍する女性研究者による講演会や理系女子大学生、大学院生や関西科学塾OGとの交流会など、身近なロールモデルと話すことで女子中高生の理系進路選択の支援を行いました。また、3月には理学部、総合人間学部、農学部の協力も得て、吉田キャンパスで実験教室と発表会を行いました。

令和6年12月には京都大学桂キャンパス座談会・見学会を行い、50名を超える高校生が桂キャンパスを訪れ、卒業生からの進路選択や現在の仕事の様子を聞いたあと、グループに分かれて研究室や桂図書館を見学しました。また引率の進路指導等を行う高校の教員と工学部の立川学部長をはじめとする執行部の教員との座談会も開催し、高校生へ工学の魅力を伝える方策や、特色入試の女子枠についての高校での捉え方など、高大連携の取り組みについての活発な意見交換が行われました。

また工学部では令和8年度から、特色入試に女性募集枠を導入します。学部におけるジェンダー・インバランスを解消し、様々な属性や背景を持つ学生同士が存分に語り合い、議論をしながら学びを深める環境の実現を目指します。



桂キャンパス見学会の様子



特色入試チラシ

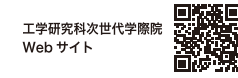


次世代研究者の育成支援

工学研究科次世代学際院では、専攻・系の枠を超えた若手研究者の研究を通じた異分野交流の場を設け、新たな総合知の修得と実践による次世代を担う研究者の育成を支援しています。

令和6年度は、全3回の「学際交流セミナー」を中心に活動を展開しました。同セミナーでは、約40名の次世代研究者が、ピッチとポスターで自身の研究を発表しました。これは、単に異分野交流のみならず、他分野の人に自分の研究を理解させ興味を持たせる力、“トランスファラブルスキル”の涵養も兼ねています。実際、この活動の中から、学際共同研究の芽が育ちつつあります。さらに、いくつかの学際的テーマでグループディスカッションを行い、異なる知で課題を考える総合知の修得の場としました。また、部局を超えた異分野交流として、医学研究科社会健康医学系専攻との共催イベント「健工連携事始」を実施しました。

今後は、超学際を視野に、交流の範囲を産業界にも広げていきます。



学際交流セミナーの様子



報道機関向け説明会の様子

国際交流活動

工学部・工学研究科では、学生交流協定を締結している海外の大学の教員や学生を数多く受け入れています。附属工学基盤教育研究センターを中心として、海外の大学生に京都大学、京都、そして日本について幅広く学んでもらう機会を提供すると共に、本学学生には多文化共生の精神と国際感覚の涵養を促すために、講義や文化イベントを通じて交流を進めています。

令和6年度は6月3日から7月30日の約2ヶ月間、フロリダ大学の教員1名、TA2名、学生49名を受け入れました。滞在期間中は本学学生も参加できるフロリダ大学の教員とTAによる講義の開催や、書道・茶道教室、「日本文化フェスティバル」と銘打った文化交流イベントを開催し、フロリダ大学生と本学学生との交流、また日本文化を身近に感じる機会を提供しました。

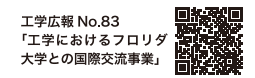
引き続き、工学研究科・工学部における国際化教育のより一層の強化を図ります。



フロリダ大学の皆さんとの集合写真



書道教室の様子



福利厚生環境の充実

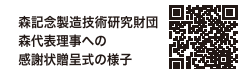
令和6年度桂キャンパスには福利厚生施設として、新たに2店舗のレストランがオープンしました。

令和6年4月にはCクラスターの総合研究棟III（C3棟）1階に、カフェテリア「cenatio silva」（ケナティオ シルヴァ：ラテン語で「森のレストラン」の意味）がオープンしました。「cenatio silva」は一般社団法人森記念製造技術研究財団の多大なるご支援のもと、管理運営されています。

また令和6年10月にはBクラスター福利棟1階にレストラン「Lunch & Cafe Crews」がオープンしました。「Lunch & Cafe Crews」は障がいのある方の就労支援施設（就労継続支援B型）としての機能も持っているレストランとなります。どちらの店舗もオープン以来、教職員、学生、また地域の方々が来店し、賑わっています。

他にも桂キャンパスには大学生協施設の他、Aクラスターにはベーカリーカフェ「ブーランジェリーセリ」があります。

教職員及び学生の福利厚生・教育研究活動の充実を今後とも目指します。



カフェテリア「cenatio silva」の様子

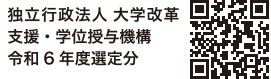


レストラン「Lunch & Cafe Crews」の様子

大学・高専機能強化支援事業 「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援」採択！！

文部科学省は、デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学や高等専門学校が成長分野への学部転換等の改革に予見可能性をもって踏み切れるよう、大学改革支援・学位授与機構に新たに基金を創設しました。京都大学では、工学研究科（電気工学専攻、電子工学専攻）及び情報学研究科が連携して、同基金による「大学・高専機能強化支援事業」の「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援」（支援2）に申請し、ハイレベル枠（高度情報専門人材の育成について、規模や質の観点から極めて高い効果が見込まれると評価される計画）として選定されました。

今後、工学研究科電気工学専攻、電子工学専攻では、材料・デバイス・量子・グリーンテクノロジー等の現実世界と情報世界の両方に立脚した多角的な高度情報専門人材を育成するために、数理、物理、データ等に関する講義科目を提供するとともに、領域交差型インターン、学位論文研究などの実践科目により学生に現場経験を積ませる予定です。同時に複数指導体制等により、学生の成長をサポートし、産業界や海外大学などとの連携を含む多様かつ包括的な教育環境を整備します。以上により、高度情報専門人材を育成し、昨今のDX及びGX推進に対する社会的要請に応えます。



ハイレベル枠採択校	
令和5年度採択	北海道大学
	筑波大学
	滋賀大学
	神戸大学
	広島大学
	九州大学
令和6年度採択	熊本大学
	京都大学

国際交流（中国・清華大学深圳国際研究生院との 修士課程ダブルディグリープログラムについて：都市環境工学専攻）

地球環境問題の解決のためには、大学や諸機関との国際的な研究協力に加え、国際的に通用する人材育成が必要です。2022年度より、工学研究科では、強い協力関係にある中国・清華大学深圳国際研究生院と、3年間で、両大学の修士号を修得できる協働教育課程：ダブルディグリー（DD）プログラムを締結しています。

本プログラムの定員は、2018年度に締結した地球環境学堂と分け合う形で、2名/年です。2022年度までは、清華大学生の受入のみでしたが、2023年度より、京都大学からも2年連続で、それぞれ1名の学生が、本プログラムに参加し、交流が活発化してきました。学生は修士1年目の8月から、1年間、清華大学深圳国際研究生院にて、英語による科目履修と修士研究を行います。

清華大学深圳国際研究生院には、京都大学オンサイトラボラトリーとして認定された京都大学—清華大学環境技術共同研究・教育センターが、2005年より設置されており、万全の学生受入体制が、20年間の活動の上に築きあげられています。

清華大学での1年間の滞在を経て、学生は京都大学のみでの学修では得られない、深圳をフィールドとした環境問題や地球環境問題の工学的な解決にリーダーシップを発揮する学際的人材として成長するとともに、英語に加えて、中国語でのコミュニケーション能力も驚くほど上達します。

本協働教育課程が、両大学院の研究・教育の推進に大きな役割となるよう、今後更なる活動の活発化に邁進してまいります。



京都大学DD生のスケジュール												
1 年次												
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
京都大学 前期					清華大学 前期					春季 休暇 (研究)	清華 大学 後期	
2 年次												
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
清華大学 後期			夏季 休暇 (研究)	夏季 休暇 (研究)	京都大学 後期					研究		
3 年次												
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
学位論文執筆							清華大学 審査		学位 論文 執筆	京都大学 審査		

次世代基礎力学人材育成講座および 次世代シンセシス科学人材育成講座設置

株式会社京都製作所からの寄附による京都大学の若手研究者育成支援事業の一環として、2024年6月1日、機械理工学専攻に専攻横断型寄附講座「次世代基礎力学人材育成講座」（教授（兼任）：平方 寛之）および「次世代シンセシス科学人材育成講座」（教授（兼任）：泉井 一浩）が設置されました。次世代基礎力学人材育成講座では、材料力学、流体力学、熱力学、機械力学、物性工学等、機械系工学の基盤となる基礎力学に関する研究と教育を行います。次世代シンセシス科学人材育成講座では、設計、製造、制御、情報、ナノ・マイクロ工学、バイオ工学等、機械系工学各領域の知見を社会へ還元するためのシンセシス科学に関する研究と教育を行います。また両講座は機械系の他研究室と連携しながら、将来の機械系工学の発展に寄与する若手研究者、技術者の育成を目指します。

同6月1日に、次世代基礎力学人材育成講座に霜降 真希特定助教、次世代シンセシス科学人材育成講座に韓 霽珂特定助教、松本 倫実特定助教が着任しました。同7月1日に、次世代基礎力学人材育成講座に王 吟麗特定助教が着任しました。

本事業では、両講座での研究と教育、給付型奨学金制度等の学生支援事業およびその他の教育研究振興を通じて、将来の機械系工学の発展の礎となる基礎研究を推進するとともに、その発展を担い、組織の壁を越えて協働できる優秀な研究者や技術者を育成・輩出することで、大学の知を産業界に繋ぎ、新たな価値の創出と社会課題の解決を目指します。



株式会社京都製作所からの寄附による事業実施に合意しました



京都大学大学院工学研究科 機械理工学専攻寄附講座



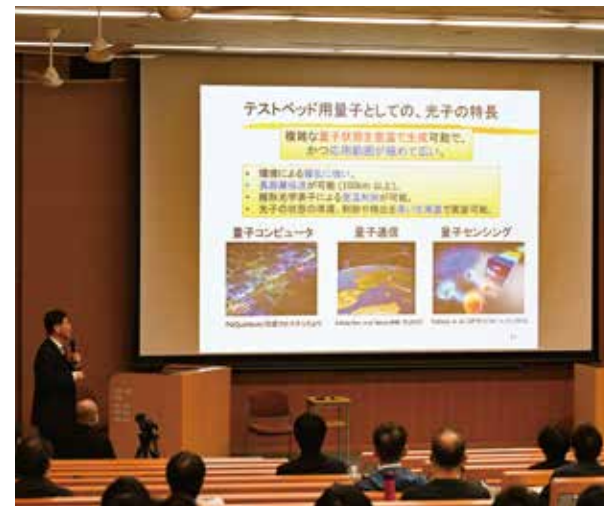
京大工学の新しい動き

光量子センシング教育研究センターを設立しました。

光の素粒子である光子などの「量子」は、私たちが日常経験するのとは異なる振舞いをします。その一つである「量子重ね合わせ状態」の不思議さは、京都大学出身のノーベル物理学賞受賞者である朝永振一郎先生のエッセー「光子の裁判」で活写されています。近年、複数の量子の重ね合わせ状態である「量子もつれ」が注目され、量子コンピュータや量子センシングなどに応用する研究が急速に進められています。

工学研究科においては、量子もつれ状態の光を駆使した「光量子センシング」に関し、量子もつれ顕微鏡や量子赤外分光などを実現・発展させてきました。平成30年に文部科学省「光・量子飛躍フラッグシッププロジェクト（Q-LEAP）」の支援を得て研究が飛躍的に発展し、令和5年には「光量子センシング社会実装コンソーシアム」を設立してその社会実装にも取り組んでいます。

そのような状況をふまえ、光量子センシングの教育研究をさらに加速することを目的とし、令和7年4月に、光量子センシング教育研究センターを設置しました。理学研究科、医学研究科、卓越大学院「先端光・電子デバイス創成学」などの学内組織とも密接に協力し、また量子技術イノベーション拠点（QIH）などの学外機関とも連携し、光量子センシングの学術の深化、社会実装、および人材育成の世界的な拠点となることを目指します。ご支援いただきますよう、よろしく御願い申し上げます。



附属光量子センシング教育研究推進センターの設立に先立ち、令和7年3月に桂キャンパスで開催された、ERATO 竹内超量子もつれプロジェクト第一回公開シンポジウムの様子

附属光量子センシング教育研究センター



京都大学 光量子センシング社会実装コンソーシアム

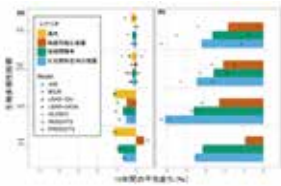


2024 年度の主な研究成果

工学部・工学研究科 Web サイトに掲載している、研究成果やイベントの開催案内から抜粋した一部を紹介します。

都市環境工学専攻

持続可能な発展に向けた対策は生物多様性の損失を抑え生態系サービスを向上させる



1900 年から 2050 年までの生物多様性と生態系サービス（生態系から提供される人間の利益になる機能や資源）の変化を複数のシミュレーションモデルと指標を用いて多面的に明らかにしました。今後、持続可能な発展に向けた対策を進めると、生物多様性と生態系の調整サービスの減少を抑えられますが、対策をせずに今の速度で土地開発と気候変動が進むと過去と同じ速度で減少することが示されました。この結果は地球規模での持続可能な発展に向けた取り組みの重要性を示唆しています。

建築学専攻

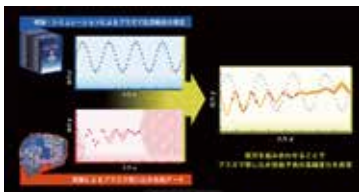
【住み方発見 !! Home Life Diaries in Japan】展を開催しました。



これまでに住んできた家と暮らしの経験について両親・祖父母などヘインタビューし間取り図を再現する…そんな《住経験インタビュー》に、京都大学工学研究科の学生を始めとする 9 校約 500 人の学生が取り組み、2,000 を超える住まいの様子が描き出されてきました。その中からユニークな住み方を示す間取りを 100 点程度選り抜き展示する展示会【住み方発見 !! Home Life Diaries in Japan】展を 2024 年 12 月 2 日から 15 日にギャラリー日本橋の家にて、開催しました。

附属工学基盤教育研究センター・原子核工学専攻

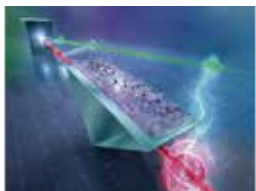
データ科学による核融合プラズマの閉じ込め性能予測の高精度化 ー理論・シミュレーション・実験を結びつけるマルチフィデリティモデリングー



本研究では、マルチフィデリティモデリングと呼ばれるデータ科学の手法を使って、核融合プラズマの乱流輸送モデルの予測精度を高めることに成功しました。マルチフィデリティモデリングとは、多数の低精度データと少数の高精度データを組み合わせ、全体の予測をより正確にする方法です。この手法により、これまででは難しかったシミュレーションの予測性と実験データの定量性という双方の利点を組み合わせることが可能になり、将来の核融合炉の性能を予測し、設計を改善するのに役立つと期待されます。

電子工学専攻

全反射法を利用した、新しい量子赤外分光装置を実現 ー小型でポータブルな、新装置へー



量子もつれ光を用いた「量子赤外分光」は、可視域の光源と検出器のみで赤外分光が可能になり、分光装置の大幅な小型化・高感度化・低コスト化が期待される技術として注目されています。今回、表面が平滑でないサンプルをプリズムに押しつけることで測定が可能で、全反射法による量子赤外分光を実現しました。本手法は、様々な試料を簡単に測定でき、また従来困難であった厚みのあるサンプルの測定も可能となるため、より幅広い用途で利用可能な小型でポータブルな量子赤外分光システムの実現が期待されます。

高分子化学専攻

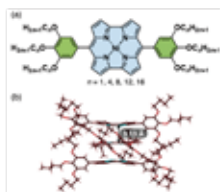
分岐構造を持つポリビニルアルコールの合成 ーホウ素を活用して新しい特性を示す高分子材料を創出ー



ポリビニルアルコール（PVA）は日常生活のみならず先端研究の現場でも様々な目的で用いられる水溶性ポリマーです。一般的な PVA は酢酸ビニルのラジカル重合と重合後の加水分解によって得られ、直鎖構造を持っています。本研究ではこれまでほとんどモノマーとして用いられていなかったビニル基にホウ素が直接結合した化合物（ビニルボロン酸ピナコールエステル）のラジカル重合を行い、重合後に側鎖の炭素－ホウ素結合を酸化することで、多数の分岐構造を持つ PVA が得られることを明らかにしました。

分子工学専攻

反芳香族分子からなる液晶材料の創製に成功 ー特有の集積構造の形成と高い電気伝導性の発現ー



本研究では、反芳香族分子「ノルコロール」への分子修飾によって液晶性を付与し、反芳香族分子に特有な積層 3 量体を基本ユニットとした液晶状態を新たに形成し、液晶材料の詳細な集合化構造を実験およびコンピュータシミュレーションによって解明することで、これまでのノルコロールからなる集合体を凌駕する電気伝導性を発現する液晶材料の創成に成功しました。本研究で提示した分子設計・集合化戦略を応用することで、反芳香族分子を基盤とした電子・光機能性材料が創製され、半導体をはじめとする有機エレクトロニクスへの展開が期待されます。

各項目の二次元コードからそれぞれの研究成果等の詳細を工学 Web サイトにてご覧いただけます

3 寄附講座・産学共同講座

民間等からの奨学寄附金によって、本学の教育研究の進展及び充実を図ることを目的とし、本学の主体性が確保されるよう十分な配慮のもとに「寄附講座」または「寄附研究部門」を設置し運営しています。



寄附講座

災害リスクマネジメント工学 （JR 西日本）講座

寄附者 西日本旅客鉄道株式会社
設置専攻 社会基盤工学専攻



先端スマートセンシング （ソニーセミコンダクタソリューションズ）講座

寄附者 ソニーセミコンダクタ
ソリューションズ株式会社
設置専攻 附属光・電子理工学教育研究センター

非鉄製錬学講座

寄附者 三菱マテリアル株式会社
設置専攻 材料工学専攻



ガラス基礎科学講座

寄附者 日本電気硝子株式会社
設置専攻 材料化学専攻



優しい地球環境を実現する 先端電気機器工学講座

寄附者 ニデック株式会社
設置専攻 電気工学専攻



住友電工グループ社会貢献基金 「地球環境システム」講座

寄附者 公益財団法人住友電工グループ
社会貢献基金
設置専攻 都市環境工学専攻



京都製作所次世代シンセシス科学人材育成講座 京都製作所次世代基礎力学人材育成講座

寄附者 株式会社京都製作所
設置専攻 機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻



産学共同講座

- フロー型エネルギー貯蔵研究講座
- 進化型機械システム技術産学共同講座(三菱電機)
- 固体型電池システムデザイン産学共同講座
- 脱炭素工学研究講座
- 住友金属鉱山二酸化炭素有効利用産学共同講座
- 三井化学・京大デジタルケミカル産学共同研究講座



4 沿革

1897(明治30)年6月18日、京都帝国大学が創立され、理工科大学(理学部と工学部の前身)として京都大学はスタートしました。
その意味では京都大学の歴史は工学部の歴史でもあります。学科・専攻の変遷を中心に、京大工学の今と昔を振り返ります。



総合研究 9 号館



工学部物理系校舎



総合研究 15 号館 (旧建築学教室本館)



桂キャンパス A クラスタ



桂キャンパス C クラスタ

沿革



地球系

工学部	地球工学科
工学研究科	社会基盤工学専攻／都市社会工学専攻／都市環境工学専攻

建築系

工学部	建築学科
工学研究科	建築学専攻

物理系

工学部	物理工学科
工学研究科	機械理工学専攻／マイクロエンジニアリング専攻 航空宇宙工学専攻／原子核工学専攻／材料工学専攻

電気系

工学部	電気電子工学科
工学研究科	電気工学専攻／電子工学専攻

化学系

工学部	理工化学科
工学研究科	材料化学専攻／物質エネルギー化学専攻／分子工学専攻 高分子化学専攻／合成・生物化学専攻／化学工学専攻

■ 工学と関連のある研究科等の設置

1996年 エネルギー科学研究科
1998年 情報学研究科
2002年 地球環境学舎・学舎

■ 工学研究科が輩出したノーベル賞受賞者

1981年 化学賞 福井謙一（名誉教授）
2001年 化学賞 野依良治（卒業生）
2019年 化学賞 吉野 彰（卒業生）

詳細な年表はこちら



桂キャンパスから見える京都市街の景色

5 組織

京都大学工学部・工学研究科は、京都大学の中でも最多の学科数・専攻数を有しています。



Yasuto Tachikawa
工学研究科長
(社会基盤工学専攻 教授) 立川 廉人



Masahiro Hasuo
副研究科長
(機械理工学専攻 教授) 蓮尾 昌裕



Takeshi Abe
副研究科長
(物質エネルギー化学専攻 教授) 安部 武志



Daisuke Ogura
副研究科長
(建築学専攻 教授) 小椋 大輔



Takehiko Yokomine
副研究科長
(原子核工学専攻 教授) 横峯 健彦



Yoshikazu Takahashi
副研究科長
(社会基盤工学専攻 教授) 高橋 良和



Takuya Sakamoto
副研究科長
(電気工学専攻 教授) 阪本 卓也



立川工学研究科長、副研究科長、桂地区（工学研究科）事務部部長一同

● 桂地区（工学研究科）事務部

総務課	管理課	経理課	教務課	学術協力課
総務掛 企画広報掛 人事掛 学術支援掛 利用支援掛 A クラスター事務区庶務掛 C クラスター事務区庶務掛	財務企画掛 財務分析・評価掛 環境管理掛 施設管理掛	契約掛 運営費・寄附金掛 旅費・謝金掛	教務掛 大学院掛 留学生掛 A クラスター事務区教務掛 C クラスター事務区教務掛	研究・国際支援掛 産学交流掛 産学連携掛 補助金掛 研究施設支援掛

● 工学研究科技術室

(令和 7 年 4 月 1 日現在)

工学部	学科長	大学院工学研究科	専攻長
地球工学科	高岡 昌輝	社会基盤工学専攻	福山 英一
		都市社会工学専攻	大西 正光
		都市環境工学専攻	藤森 真一郎
建築学科	富島 義幸	建築学専攻	荒木 慶一
物理工学科	松原 厚	機械理工学専攻	長田 孝二
		マイクロエンジニアリング専攻	土屋 智由
		航空宇宙工学専攻	藤本 健治
		原子核工学専攻	檜木 達也
電気電子工学科	下田 宏	材料工学専攻	岸田 恭輔
		電気工学専攻	吉井 和佳
情報学科	青柳 富誌生	電子工学専攻	白石 誠司
理工化学科	生越 友樹	材料化学専攻	中尾 佳亮
		物質エネルギー化学専攻	阿部 竜
		分子工学専攻	寺村 謙太郎
		高分子化学専攻	中村 洋
		合成・生物化学専攻	杉野目 道紀
		化学工学専攻	田辺 克明

(令和 7 年 4 月 1 日現在)

附属教育研究施設等	センター長
附属光・電子理工学教育研究センター	DE ZOYSA, Menaka
附属流域圏総合環境質研究センター	伊藤 禎彦
附属量子理工学教育研究センター	斉藤 学
附属桂インテックセンター	安部 武志
附属情報センター	村上 定義
附属環境安全衛生センター	作花 哲夫
附属工学基盤教育研究センター	横峯 健彦
附属学術研究支援センター	安部 武志
工学研究科次世代学際院	横峯 健彦
附属光量子センシング教育研究センター	竹内 繁樹

(令和 7 年 4 月 1 日現在)



桂キャンパス銘板

詳しくはこちら



6 工学部の学科

地球工学科

地球の合理的な開発・保全

地球工学は、我々の生活と先端技術を支える資源・エネルギー、持続的に社会を支えるインフラの発展、そして人類が自然と共生するために必要な環境の維持など、諸技術体系とその融合分野で構成されます。多岐にわたる科学技術を総合的に理解する見識を養う教育をめざし、「Think Globally and Act Locally」を理念に掲げ、地球全体の合理的な開発・保全と人類の持続可能な発展を支える高度な研究や実務を遂行できる能力を養っています。国際的技術者の育成に必要な、すべての講義が英語で行われる「国際コース」も設置されています。



詳しくはこちら



建築学科

ヒューマンな技術を学ぶ

人間の生活環境を構成する建築は、安全で健康にして快適な生活を発展させる基盤であり、多様な技術を総合して創造されます。建築は人間生活のあらゆる面に深く密接にかかわるヒューマンな技術といえます。建築学科では、自然科学だけでなく、人文・社会科学や芸術に深い関心をもつ学生もひとしく歓迎し、その才能を伸ばす教育を行います。卒業後の進路も、建築家、建築技術者、建築行政担当者、大学や企業の研究者、コンサルタント、プランナーなど、実に多様です。



詳しくはこちら



物理工学科

新技術の創造人材の養成

21 世紀を起点とする次代に向けて、物理工学分野には新たなシステムや材料、エネルギー源の開発などに加え、宇宙空間の利用といった課題解決への期待が寄せられています。こうしたニーズに応える新技術を創造するには、基礎的学問を十二分に修得する必要があるという観点から「物理工学科」では、基礎重視の教育・研究を進めています。さらに機械システム学、材料科学、宇宙基礎工学、原子核工学、エネルギー応用工学の 5 コースが連携し、高い専門的能力と広い視野を持つ人材を育成します。



詳しくはこちら



電気電子工学科

産業や生活基盤を支える科学技術

電気電子工学は、現代社会のあらゆる産業や社会インフラに不可欠な科学技術を支えるだけでなく、21 世紀を豊かにするための重要な役割を担っています。そのため電気電子工学科では、幅広い領域におよぶ総合的な知識と高い専門性に加え、複眼的な視野や卓越した独創性、倫理観を備えた人材の育成をめざしています。カリキュラムは基礎学習のあと、各自が志望にあわせて専門科目を履修します。こうした4年の学びを通して最先端の科学技術を理解しながら、電気電子工学の発展が担える知識と技術を身につけます。



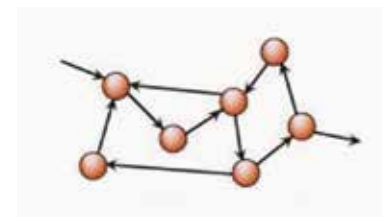
詳しくはこちら



情報学科

複雑なシステムの問題を解決

社会の高度情報化にともない、多様な分野に現れる数理モデルの解析や、複雑な情報システムを通じて収集される膨大なビッグデータの分析や活用が必要とされています。そのためにはシステムの機能はもとより、そこに流れる「情報」の本質を究明し、それに基づいて効率的なデザインを行うための思考力が重要になってきます。「情報学科」では、実世界に現れる複雑なシステムの諸問題を数理的アプローチにより解決するとともに、計算機のハードウェア、システム・ソフトウェア、情報システムを設計・活用できる人材となることをめざして学びます。



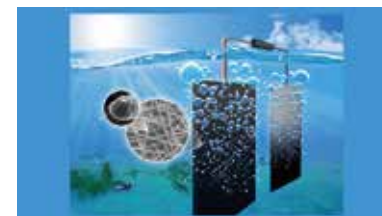
詳しくはこちら



理工化学科

最先端科学技術の基盤を担う

化学は、さまざまな物質をつくる反応とそのプロセス、物質がもつ機能や物性を対象とする学問です。「理工化学科」は、持続可能な社会を作り出すために、地球・宇宙規模の課題に対応できる、創造的な基礎科学・先端技術の開発や学際領域の研究を推進しています。化学に関連した広い分野にわたる基礎科学と工学を重視した教育を行い、物質そのものや物質の持つさまざまな機能の創出、エネルギーの利活用、生命・生物システムの理解と応用など、社会を支える多様な化学分野で活躍できる科学者・研究者ならびに技術者を育成します。



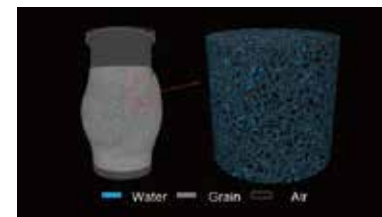
詳しくはこちら



7 工学研究科の専攻

社会基盤工学専攻

新たな産業と文明を開き、環境と調和して、安全・安心で活力ある持続可能な社会を創造するためには、人類が活動する領域とそこにある社会基盤構築物を対象とした技術革新が欠かせません。社会基盤工学専攻では最先端技術の開発、安全・安心で環境と調和した潤いのある社会基盤整備の実現、地下資源の持続的な利用に重点を置き、社会基盤整備を支援する科学技術の発展に貢献します。そのために、地球規模の環境問題とエネルギー問題を深く理解し、国際的かつ多角的な視野から新たな技術を開拓する工学基礎力、さらに実社会の問題を解決する応用力を有する人材を育成します。



詳しくはこちら



都市社会工学専攻

都市社会工学専攻は、高度で豊かな生活の質を保証しうる都市社会システムの実現を目指して、高度情報通信技術、社会基盤技術、エネルギー基盤技術の融合を図るために、都市工学・交通工学・ロジスティクス工学・地球資源工学などの都市活動を分析する技術や、都市計画・交通計画などの計画技術、安全で持続可能な都市システムを実現するためのライフライン、地盤、河川などに関わる社会基盤を高度化する技術、都市ガバナンス及び都市基盤マネジメントという概念の下での新たな都市エネルギー資源論を構築するための技術、さらには持続可能性評価を含めた都市システムの総合的なマネジメントを行うための方法論や技術の確立を目指しています。

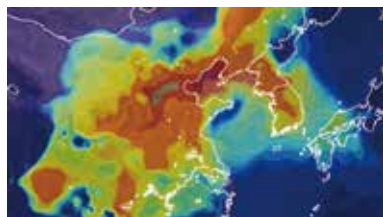


詳しくはこちら



都市環境工学専攻

気候変動等の地球環境問題に代表されるように、科学の進歩がもたらした人類の発展はいまや地球規模での限界に直面しています。また、地球上には、高齢化・価値観の多様化に困惑する社会が存在する一方で、人口爆発や人間安全保障の未充足に苦しむ社会が依然存在します。都市環境工学専攻は、これらの問題解決の要請に応えるべく、学内外の関連機関・部局・専攻とも連携し、個別の生活空間から地域及び地球規模に至る幅広い環境場を対象として、顕在化／潜在化する地域環境問題の解決、健康を支援する環境の確保、持続可能な地球環境・地域環境の創成、新しい環境科学の構築を念頭に教育・研究を推進します。

[詳しくはこちら](#)

建築学専攻

建築学は人類の生活に関与する多様な学術分野を担っており、地球環境の持続的な発展と文化の創造に対して大きな責任を負っています。高度な機能を有し、安全・安心を維持し、文化創造を推進するための多様な建築空間を実現するため、建築学における計画・構造・環境の各分野の基礎的部門の教育と先端的研究を推進するとともに、建築を自然環境と生活環境のなかで総合的・実践的に捉え直し、既成の専門分野にとらわれずに分野横断的で幅広い専門的知識と創造性を修得させる教育・研究を行っています。

[詳しくはこちら](#)

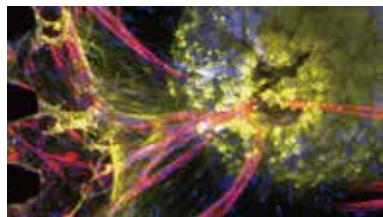
機械理工学専攻

機械工学では、マイクロからマクロにわたる広範な物理系をその対象として、生産システム、エネルギー、環境、生活、生命・生体・医療などに関する人間のための技術の進展を図ります。その基礎となる学問は、材料・熱・流体の力学と物性物理、機械力学、振動工学、制御工学などであり、さらにその基礎には、機械システムとそのエレメントの設計・製造・評価・診断・制御に関する工学の考え方が求められます。機械理工学専攻では、人間と自然との共生を目指す広い視野をもって、これらの智恵や知識を主題とする研究・教育を行い、また、挑戦的に課題を設定しそれを克服する能力をもってリーダーとなりうる技術者・研究者を育成し、社会と産業界の期待に応えるべく努めています。

[詳しくはこちら](#)

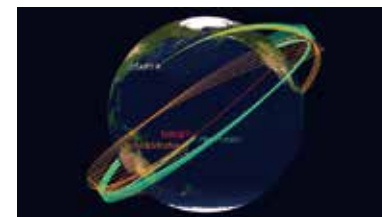
マイクロエンジニアリング専攻

マイクロエンジニアリング専攻は、21 世紀の人間社会・生活に大きな変革をもたらす原動力として期待されている微小な機械の研究能力と開発能力を有する研究者・技術者を養成する教育・研究課程です。機械工学の基本知識をベースに、ナノメートルオーダーからマイクロメートルオーダーの微小領域特有の現象を解明し、ナノレベルで発現する量子効果の利用に必要な量子工学、材料を創製し加工するための微小領域における材料工学・微細加工工学、ナノ・マイクロシステムを構築し思い通りに動かすためのシステム工学・制御工学、そして、最も精密な微小機械の集合である生体に学び、生体の機能解明や分子・細胞を応用することを目的としたバイオエンジニアリングに必要な学問分野を有します。

[詳しくはこちら](#)

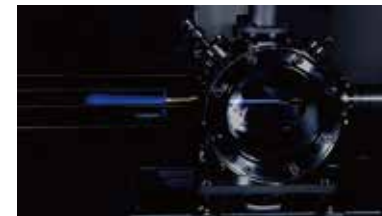
航空宇宙工学専攻

航空宇宙工学専攻では大別して、航空宇宙機の航行に関わる航空宇宙環境との相互作用、航空宇宙機の推進とエネルギー、航空宇宙機の材料・構造強度、航空宇宙機のシステム・制御などを研究対象としています。航空宇宙工学というフロンティアを切り開くため、当専攻では基礎的な科学と工学を最重要視しています。いいかえると、第一の使命は単に航空宇宙に限定されず新しい可能性に向けた先端工学の扉を開くこと、第二の使命は深い知識に基づいてオリジナルなアイデアを十分に創造できる科学技術者を育てることです。

[詳しくはこちら](#)

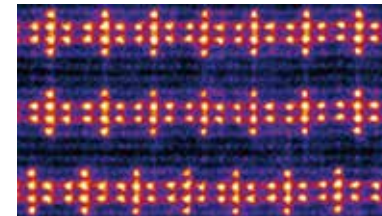
原子核工学専攻

原子核工学専攻は、素粒子、原子核、原子や分子など、量子の科学に立脚したミクロな観点から、量子ビーム、ナノテクノロジー、アトムテクノロジーなど、最先端科学を切り開く量子テクノロジーを追求するとともに、物質、エネルギー、生命、環境などへの工学的応用を展開して、循環型システムの構築を目指しています。そして、体系的かつ立体的な教育・研究を通じて、先端的研究者や高度専門技術者などの人材を育成しています。このような研究・教育によって、人間社会のより豊かで持続ある発展に貢献しています。

[詳しくはこちら](#)

材料工学専攻

材料科学・材料工学は、未だ世にない新しい物を創るために必要な新たな材料（特に結晶性のハードマター）を創造する学問・技術です。そのままだと錆びてしまいぼろぼろになる鉄から、錆びにくいステンレス鋼をはじめとする様々な優れた特性を有する特殊鋼が創りだされ、世の中の機械・建築構造物の設計は大幅に変更されるに至りました。これまでの歴史が示しているように、新材料の開発は革新技術の発展においてパラダイムシフトを引き起こします。材料工学専攻では、構造材料、機能性材料の開発・実用化を目指した多岐にわたる基礎研究を推進しています。

[詳しくはこちら](#)

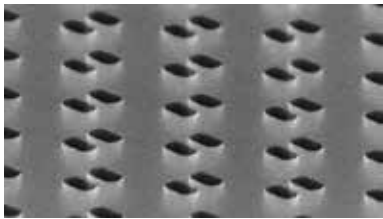
電気工学専攻

電気工学は、電気・電子に関わる技術を社会の様々なところで利用していく上での基礎的な学問分野です。例えば、脱炭素社会の実現に向けて期待を集める電気自動車や風力発電は電気工学の賜物ですし、第 5 世代移動通信システム、いわゆる 5 G のような電磁波を使った通信技術も電気工学を基礎として成り立っています。これらは、電気工学がカバーする領域のごく一部に過ぎず、電気工学専攻では、先端電気システム論、システム基礎論、生体医工学、電磁工学の 4 講座、ならびに、1 つの協力講座と 1 つの寄附講座において、広範な領域における教育研究を行っています。

[詳しくはこちら](#)

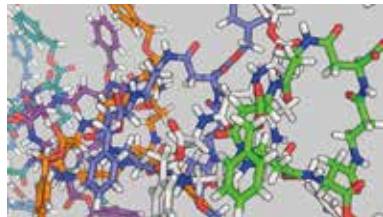
電子工学専攻

電子工学専攻では、次世代のオプトエレクトロニクスを支える基幹技術の実現を通じた社会への貢献を目標とし、「光」と「電子」をキーワードとした新しい概念の提唱とそれに基づく革新的材料・デバイスの創製に関連する教育・研究を進めています。具体的には、光の究極的な制御として、例えば、従来の半導体レーザーの常識を覆す、短パルス・高ピーク出力フォトニック結晶レーザーの実現、新ワイドギャップ半導体材料の物性解明やこれを用いたパワーエレクトロニクス素子の設計と作製、半導体における発光機構のナノレベルでの解明や高効率発光素子応用など、広範囲な分野で世界の先端を走る研究を展開しています。

[詳しくはこちら](#)

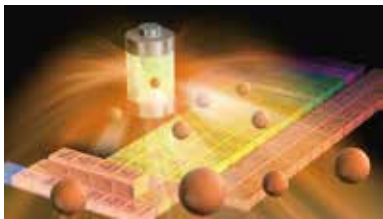
材料化学専攻

化学はいま、新物質を作る技術に加えて、物質を構成する分子の生い立ちや性質を調べ、物質特有の機能を探索する学問に変貌しつつあります。材料化学専攻では、無機材料、有機材料、高分子材料、ナノマテリアルを中心に、その構造と性質・反応性を分子レベル及びナノレベルで解明しながら、新しい機能や性質を持った材料を化学的に設計するとともに、その創製方法を確立することを目的として研究・教育を行っています。材料化学専攻では、統合的科学に基づいた新規機能材料の開発を推進するため、専攻内のみならず専攻を越えた研究交流や研究協力体制の構築を進めています。

[詳しくはこちら](#)

物質エネルギー化学専攻

「化学」は、これまで未知であった自然科学の現象を実験と理論により解明し、新しい原理を構築することを目標とする学問であり、それらの成果を人々の生活や社会にとって有用な形で還元する責務を担っています。物質エネルギー化学専攻では、第一に、基礎化学の効果的な継承と新しい学理の構築、第二に、それらを基盤とし、「物質」および「エネルギー」の高効率変換を実現する高い独創性と学術的意義を持つ革新的技術を創出し、資源の高効率循環を達成するための研究を推進しています。これらの研究を通じて、問題発見、課題設定、問題解決を自律的に行い、かつ倫理性の高い優れた人材を継続的に育成しています。

[詳しくはこちら](#)

分子工学専攻

化学は物質の変換を扱う学問であるとともに、物性を電子構造・分子の配列と相互作用などとの関連で論じ、新しい機能をもつ分子や材料の設計を行う学問として、ますますその分野をひろげつつあります。分子工学は、原子・分子・高分子などが関わる微視的現象を対象とする基礎学問を支柱として、原子・分子・高分子の相互作用を理論的、実験的に解明し、その成果を分子レベルで直接工学に応用する新しい学問領域です。分子工学専攻では、分子論的視野に立って、斬新な発想で基礎から応用への展開ができる研究者・技術者を育成することを目的として、新しい電子材料やエネルギー・情報関連材料などの開発のための基礎的研究を展開しています。

[詳しくはこちら](#)

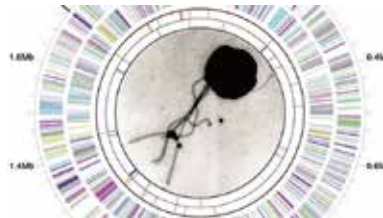
高分子化学専攻

高分子化学は、基礎学問としての物質科学と、実用的なニーズを背景とする応用科学とが融合した学問分野であり、基礎－応用、合成－物性、理論－実験、有機－無機、マイクロ－マクロ等々、さまざまな視点において幅広いスペクトルをもつ分野です。高分子化学専攻では、光・電子・情報分野、高機能材料、再生医療、ナノテクノロジーなど、次々と生まれる高分子の発展分野を支えるため、高分子の生成、反応、構造、物性、機能について基礎研究と教育を行うとともに、その成果を社会に還元し、関連する学問分野との連携を通して、新たな科学技術の創成に貢献することを目指しています。また、高分子を基礎とする先端領域において活躍できる能力を備えた研究者、技術者の養成をしています。

[詳しくはこちら](#)

合成・生物化学専攻

合成・生物化学専攻では多彩な物質と機能を創り出す学問である合成化学と、生物の機能を解明し利用する生物化学との学際領域を密接な連携をもとに開拓し、総合精密化学としての創造性豊かな化学分野を確立することを理念としています。合成化学講座及び有機設計学講座では、効率的合成を目指した物質変換の基礎と応用、無機・有機複合分子集積系の機能、さらに分子や分子集合体の構造と反応性・物性の相関を明らかにすることを目標にしています。生物化学講座では、分子／システム／細胞／生体（個体）など様々な階層における生命現象を分子レベルで理解し制御するとともに、生物機能・生体物質を利用し、斬新な機能を持つ物質を生み出すことを目指しています。

[詳しくはこちら](#)

化学工学専攻

化学工学の特徴は対象とするプロセスから要素となる現象を抽出し、その本質と動的特性を定量的に捉え、さらに、最適システムを構築して、物質、材料の高機能化と物質、エネルギーの効率的生産のための方法論を探索することにあります。人類に有用な機能をもつ物質及び材料を化学的変換によって創出する。物質、材料、エネルギーを環境に優しく、効率よく生産する方法を提案する。化学工学専攻ではこのような課題について教育、研究を行っています。

[詳しくはこちら](#)

8 附属教育研究施設等

附属光・電子理工学教育研究センター

光・電子・量子の自在な制御を可能とする最先端技術の創成・社会実装拠点の構築、ならびに新学術創成に向けた先進教育研究拠点形成を目指して活動しています。

本センターの目的は、光・電子・量子の自在な制御を可能とする最先端技術の創出・社会実装を行う拠点の形成と、新学術創成を目指す先進教育・研究拠点の構築を行うことにあります。21世紀は、光・電子・量子の時代と言われています。世界規模で情報処理量とエネルギー消費が継続的に増大する中で、将来にわたって世界が持続的に発展するためには、現実空間と仮想空間を高度に融合した超スマート社会（Society 5.0）の実現や、実質的な二酸化炭素排出量をゼロとするカーボンニュートラルの達成が不可欠です。そのためには、自動運転（スマートモビリティ）、スマート製造、量子演算、さらには、エネルギーの有効活用が不可欠で、その核となる光・電子・量子を自在に操るための技術革新が極めて重要といえます。本センターでは、深い物理的思考に基づく教育研究背景をもつメンバーと、社会実装を願う産業界のメンバー等を結集し、京都大学が世界に誇る「フォトニック結晶」「フォトニックナノ構造」「ワイドバンドギャップ材料」技術等を駆使して、光・電子・量子の自在な制御を可能とする最先端技術の創出および社会実装拠点形成を進めています。さらに、2022年度より、寄附講座「先端スマートセンシング（ソニーセミコンダクタソリューションズ）講座」をも設置し、活動範囲を大きく広げています。また、本センターは、「先端光・電子デバイス創成学」卓越大学院教育の一端をも担っており、情報学研究科や、理学研究科等とも連携しながら、光・電子・量子分野における新学術創成を目指す先進教育研究拠点の構築を進めています。

[詳しくはこちら](#)

附属流域圏総合環境質研究センター

有害物質を制御・評価・緩和することで環境質を向上させることを目指します

環境の質に焦点を置いて、制御、評価、緩和の3領域の有機的な連携の下に環境汚染物質による人間及び生態系への有害影響に関する工学的研究の総合化と教育機能の拡充を目指しています。外国からの招聘教授の制度を有していることも特徴です。人間や生態系に直接影響のある問題に対する世界的な関心が高まり、環境状態のわずかな変化が蓄積的・累積的に及ぼす影響の重大性が認識される現状から見て、当研究センターでの成果は大いに期待されています。



詳しくはこちら



附属量子理工学教育研究センター

粒子線加速器を活用したナノスケール科学の研究と支援を行います

当センターでは、粒子加速器を用いたイオンビーム、電子線、X線などの高機能な量子線を活用し、原子レベルでの現象観測や新材料・デバイスの開発を推進しています。これにより、物質科学、医学、エネルギー、環境、宇宙科学などの幅広い分野への貢献を目指しています。また、学内外の研究者が利用できる共同利用施設として、イオンビーム分析や材料照射を通じた最先端の研究・教育支援を積極的に行っています。さらに、併設する核燃料施設では、核燃料サイクル技術の基礎研究にも取り組んでいます。

最先端の加速器技術を駆使し、未来を拓く研究を支援します。



詳しくはこちら



附属桂インテックセンター

専門分野の枠組みを越え英知を結集融合することにより、工学基盤技術の革新と世界を先導する新技術の発明・創出を目指します

専攻、研究科の枠組みを越えた研究者群で組織された複数の研究部門が設置され、最先端の戦略的研究を行うとともに、世界を視野に入れた対外的な顔として成果を大いに期待され、研究交流等も行っています。また、地上3階地下1階のこの建物には、さまざまなプロジェクトグループも入居しており、日々新たな工学の可能性を探究しています。



詳しくはこちら



附属情報センター

工学研究科の情報基盤の整備とその円滑な運用をサポートします

工学研究科附属情報センターは、工学研究科の情報基盤の運営を行う組織として設立されました。本センターでは、研究科の研究・教育・運営の支援として情報システムの構築・運用、情報セキュリティ管理およびIT環境の利用サポートを行っています。また全学のモデルケースとして最新技術の導入にも積極的に取り組み、学内サービスの向上に貢献しています。



詳しくはこちら



附属環境安全衛生センター

工学研究科で学び働く人々の快適環境をサポートします

工学研究科を環境にやさしく安全衛生に配慮した教育研究にふさわしい場にするを目的とし、労働安全衛生法等の安全衛生関係諸法令の遵守ならびに環境保護に向けた業務を一元的に行います。本センターでは作業管理、作業環境管理、健康管理について専門の教員・技術職員を配置し、作業環境測定や化学物質管理システムの運用などを通じて、工学研究科の教育研究活動をサポートします。



詳しくはこちら



附属工学基盤教育研究センター

工学教育の革新及び国際化教育の一層の強化を図ります

工学基盤教育研究センターは多様化する工学教育の現状に機能的かつ頑健に対応するため、工学研究科・工学部における工学教育の革新及び国際化教育のより一層の強化を図り、将来にわたって盤石たる工学の基盤教育を築くことをミッションとしています。

若手教員のFDや工学部・工学研究科共通型科目を所掌する他、大学教育の国際化およびグローバル人材育成のために、EdTechの活用による留学生教育の高度化、学生および若手研究者の留学・海外派遣事業の推進、On-site Lab・ダブルディグリーを組み合わせた積極的かつ戦略的な国際連携開拓を進めています。

さらに、社会との繋がりを意識し起業家精神を涵養するアントレプレナーシップ教育を、学部・大学院共通型科目として結実させ推進しています。



詳しくはこちら



附属学術研究支援センター

研究に関わる様々な業務を支援します

当センターは、文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業の一環で、研究者の様々な研究活動を支援するために設置されました。研究者が行う、競争的資金の獲得、プロジェクトの管理、産官学連携の推進等を支援します。



詳しくはこちら



工学研究科次世代学際院

組織の壁をこえた協働ができる人材の育成を行います

工学研究科次世代学際院（Interdisciplinary Research Institute for the Next Generation, iRING）は、新たな総合知の修得と実践を基盤とした次世代を担う研究者の育成を目的として設置されました。研究科内では、専攻の枠を超えた連携の場を設けるとともに、他部局とのセミナー共催や企業との交流会を開催し、研究を軸とした活発な異分野交流を促進しています。これらの多様な活動が、新たな学際研究の創出につながることが期待されます。



詳しくはこちら



附属光量子センシング教育研究センター

量子もつれ光などを利用する光量子センシングの教育・研究を学内外機関と連携して推進、学術の深化と社会実装を目指します。

量子科学技術は急激に進展しています。京都大学では、量子もつれ光などの「古典電磁気学では記述できない」光を駆使することで、従来の光センシングの感度限界を打破し、新しい機能を実現する「光量子センシング」に関し、量子もつれ顕微鏡や量子赤外分光などを世界にさがかけて実現・発展させてきました。令和5年には「光量子センシング社会実装コンソーシアム」を、成長戦略本部の協力を得て工学研究科に設立し、その社会実装にも取り組んできました。

本センターは、総合研究推進本部や成長戦略本部、また理学研究科、医学研究科などの学内組織と密接に協力、また量子技術イノベーション拠点（QIH）などの学外機関とも連携し、光量子センシングの学術の深化、社会実装、および人材育成の世界的な拠点となることを目指します。また卓越大学院「先端光・電子デバイス創成学」等とも連携し、光量子センシングに関する教育を推進します。



詳しくはこちら



9 国際交流の状況

京都大学工学部・工学研究科は、基礎研究を重視して自然環境と調和のとれた科学技術の発展を図るとともに、高度の専門能力と高い倫理性、ならびに豊かな教養と個性を兼ね備えた人材を育成するため、教育・研究における国際交流を推進し、学術・研究の発展を通じて、国際社会へ貢献していきます。

令和 7 年 5 月 1 日現在

● 部局間協定締結機関

▼ 海外研究拠点

● 京都大学ー清華大学環境技術共同研究・教育センター
京都大学オンサイトラボラトリー

国際交流協定・海外拠点
(学術交流協定/学生交流協定)の詳細はこちら



欧州 (NIS 諸国を含む) (9)	部局間協定締結機関名 (16)	部局間 学術交流 協定	部局間 学生交流 協定
英国	バーミンガム大学 工学研究科等	●	
オランダ王国	デルフト工科大学	●	
スイス連邦	スイス連邦工科大学 チューリッヒ校		●
スウェーデン王国	リンシェーピング大学	●	●
チェコ共和国	チェコ工科大学	●	
ドイツ連邦共和国	ハインリヒ・ハイネ大学 (デュッセルドルフ) 有機化学及び高分子化学研究所	●	●
	ドルトムント工科大学 生物化学・化学工学部	●	●
	フライブルグ大学 工学部		●
ノルウェー王国	ノルウェー科学技術大学	●	
フランス共和国	国立パリ建築大学ラ・ヴィレット校	●	●
	ピエール・マリー・キュリー大学 (パリ第6大学) →ソルボンヌ大学に統合	●	
	レンヌ大学 SPM・ESIR	●	●
	レンヌ大学 IUT de Lannion		●
	地球物理学パリ研究所	●	
ポーランド共和国	国立高等研究実習院	●	●
	AGH科学技術大学	●	

中東 (1)	部局間協定締結機関名 (1)	部局間 学術交流 協定	部局間 学生交流 協定
アラブ首長国連邦	アラブ首長国連邦大学理学部及び工学部	●	

アフリカ (2)	部局間協定締結機関名 (2)	部局間 学術交流 協定	部局間 学生交流 協定
エジプト・アラブ共和国	カイロアメリカン大学 工学部、工学研究科	●	
ケニア共和国	ジョモケニヤッタ農工大学	●	●

アジア (8)	部局間協定締結機関名 (18)	部局間 学術交流 協定	部局間 学生交流 協定
インド共和国	国立学際科学技術研究所	●	
インドネシア共和国	ブラウィジャヤ大学 工学部・工学研究科	●	●
タイ王国	アジア工科大学 工業技術研究科等		●
	キングモンクット工科大学トンブリ校 (エネルギー環境合同大学院大学 (JGSEE))	●	
	キングモンクット工科大学 ラカバン校	●	
	マヒドン大学工学部		●
大韓民国	慶熙大学校工学部	●	
	韓国建設技術研究院	●	
台湾	国立成功大学 工学院	●	●
中華人民共和国	大連理工大学	●	
	同済大学大学院	●	
	香港城市大学 理工学研究科		●
	東南大学研究院	●	●
	天津大学理学院	●	
	香港中文大学 (深圳) 理工学院	●	●
ベトナム社会主義共和国	吉林大学	●	
	ハノイ土木工科大学	●	
マレーシア	マレーシア工科大学 建築都市環境学部等	●	

● 国立パリ建築大学ラ・ヴィレット校との合同ワークショップ

毎回テーマを設定し、建築系研究室の学生が国立パリ建築大学ラ・ヴィレット校の学生とともに、パリを舞台に現地調査、ディスカッション、プレゼンテーションを行うワークショップを行っています。



パリ市内における歩行調査の様子

● 国際インターンシッププログラム



TUD 生最終報告会



ドルトムント中心部

ドイツのドルトムント工科大学との国際インターンシッププログラムを1990年以來継続して行っています(化学工学専攻)。日本人学生はドイツにて、ドイツ人学生は日本にて、両大学のプログラムコーディネーターが用意した企業で2カ月間のインターンシップを行います。日本人学生はドルトムント工科大学で、ドイツ人学生は京都大学で、オリエンテーションと最終報告会を行い、それぞれの大学で単位認定しています。



北米 (2)	部局間協定締結機関名 (7)	部局間 学術交流 協定	部局間 学生交流 協定
アメリカ合衆国	ウィスコンシン大学 マディソン校 工学部	●	
	ワシントン大学 工学部	●	
	テキサス大学 オースティン校 工学部	●	
	レンスラー工科大学 工学部	●	
カナダ	ニューヨーク・シティ大学 エネルギー研究所	●	
	ウエスタンオンタリオ大学 工学部・理学部	●	
	トロント大学 理工学部		●

中南米 (1)	部局間協定締結機関名 (1)	部局間 学術交流 協定	部局間 学生交流 協定
ブラジル連邦共和国	サンパウロ大学 工学部・工学研究科	●	

大洋州 (2)	部局間協定締結機関名 (2)	部局間 学術交流 協定	部局間 学生交流 協定
オーストラリア連邦	王立メルボルン工科大学	●	
ニュージーランド	ウェリントン・ビクトリア大学 理学部・工学部・建築デザイン学部、ロビンソン研究所、フェリエ研究所	●	●

● 京都大学卓越大学院プログラム「先端光・電子デバイス創成学」

「物理限界への挑戦と情報・省エネルギー社会への展開」を共通理念として先端光・電子デバイスおよび関連する学問分野を強い責任感と高い倫理性を持って牽引できる国際的リーダーの育成を目指す 5 年一貫の博士課程学位プログラムを有しています。



国際セミナー道場

● 京都大学ー清華大学環境技術共同研究・教育センター 京都大学オンサイトラボラトリー



日中環境技術共同研究・教育シンポジウム



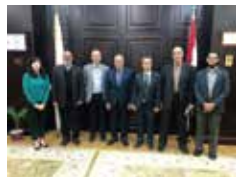
センター設置調印式

環境工学の共同教育研究活動を行うことで環境問題の解決を目指すため、2018 年 12 月に京都大学オンサイトラボラトリーに認定されました。持続可能な社会に必要とされる環境技術の研究開発を清華大学深圳国際研究生院と共同で推進するとともに、民間企業等との共同研究を推進するためのリエゾンオフィスの役割も果たしています。2022 年度より、修士課程ダブルディグリープログラムを開始しました。また、京都大学学生のための中国でのインターンシップ研修先や清華大学学生の日本でのインターンシップ窓口としての機能も備えています。



● エジプト日本科学技術大学 (E-JUST)

JICA と連携して日本とエジプト両国の連携事業である「エジプト日本科学技術大学 (E-JUST)」プロジェクトを支援しています。



E-JUST 訪問



先端マイクロ化学夏季講習会



外国人留学生
受け入れ人数

学部	修士課程	博士後期課程
119	93	284

合計 496

令和 7 年 5 月 1 日現在

外国人研究留学生等
受け入れ人数

研究生	特別聴講学生	特別研究学生	短期交流学生
17	14	9	5

合計 45

令和 7 年 5 月 1 日現在

招へい外国人学者等
受け入れ人数

招へい外国人学者	外国人共同研究者	外国人研究員
27	62	2

合計 91

令和 6 年度

京都大学の海外機関
との交流協定はこちら



10 京大工学基金のご紹介

京都大学工学部・工学研究科が設置している「京大工学基金」をご紹介します。本基金を活用し、美しい景観のテクノサイエンスヒル桂で、研究インフラの整備や福利厚生施設などの充実を図り、高度な専門性と豊かな創造性を持つ、未来の工学を担える人材を育成します。

京大工学基金とは

「基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用展開や発展を可能とするために必要である」という教育理念を堅持し、より地球にやさしい科学技術の創成・発展を担い、明るい未来を創っていくことが「工学」の使命だと考えています。

この使命感のもと、京都大学工学部・工学研究科では、確固たる基礎知識に基づいた高度な専門性と豊かな創造性を持ち、高い品格を兼ね備えた若き優秀な人材の育成に努めています。

工学研究科が桂キャンパスに移転してから、2023 年で 20 年を迎えました。桂キャンパスは自然環境に恵まれた美しい広大なキャンパスですが、寮などの福利厚生施設が充実しておらず、また、吉田キャンパスと地理的に離れていることによって、教育・研究を進めるうえでさまざまな困難を生んでいることも事実です。

この現状をあらゆる手段をもって乗り越えていくため、本基金を設置しました。

本基金を活用し、桂図書館を中核とする情報交流ネットワーク・データ科学教育施設や福利厚生施設の充実をはじめ、学生や若手研究者が研究や課外活動に専心できる環境の整備・維持を図り、未来の工学を担える人材を育成していきます。

今後なお一層の京都大学工学部・工学研究科へのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

ご寄附の方法

Web申込または銀行窓口での振り込みが可能です。
詳細は工学HPからご確認ください。



京大工学基金の用途

教育支援	・仮想現実感を使った安全講習や実験前説等整備 ・多言語翻訳授業支援システムの開発 ・24時間学習室の設置 ・アクティブラーニングルーム等の学部生学習環境の整備	若手研究者育成支援	・青藍プログラムの支援 ・若手研究者の海外長期滞在費補助 ・新規研究立上げ補助 など
福利厚生施設整備	・留学生・邦人学生混住寮、運動施設の整備など ・福利厚生施設の充実 ・学生の心・健康のケアのための保健室の運営支援	国際交流	・外国人研究者の宿泊施設 ・On-site Labo の設立・運営支援、海外交流促進
研究インフラ整備	・桂図書館の機能充実 ・情報ネットワークの進化 ・オープンデータの促進 など	産学連携	・地域との連携 ・ベンチャー立ち上げ支援 など

11 工学部・工学研究科の同窓会

同窓会は各専攻、学科の出身者、教員、元教員（会によっては在学学生も含む）で構成され、総会、講演会等を通じて会員相互の交流と親睦を図っています。工学部・工学研究科に関連する同窓会組織は、以下のとおりです。同窓会組織の関係者等により構成された工学系同窓会連絡会も設置し、同窓会の連携組織として、京都大学および工学部と大学院各研究科の発展、京都大学同窓会との橋渡し、幅広い人的ネットワークの醸成などに寄与する事業を推進します。

工学部・工学研究科に関連する同窓会組織

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| ■ 京土会（京都大学土木会） | ■ 合成化学科・合成生物化学専攻同窓会 |
| ■ 京機会（機械系同窓会） | ■ 洛朋会（物エネ・石化・燃化同窓会） |
| ■ 洛友会（電気電子関係教室卒業生同窓会） | ■ 無機材料系研究室同窓会 |
| ■ 水曜会（旧資源・金属系教室同窓会） | ■ 航空宇宙応物同窓会 |
| ■ 京大建築会 | ■ けしの実会（原子核工学教室同窓会） |
| ■ 工化会（化学系学科同窓会） | ■ 京都大学数理会（情報学科数理工学コース同窓会） |
| ■ 洛窓会（化学工学専攻・旧化学工学科等同窓会） | ■ 情洛会（情報学科計算機科学コース同窓会） |

京都大学同窓会HP

各同窓会の詳細はリンク先HPからご確認ください

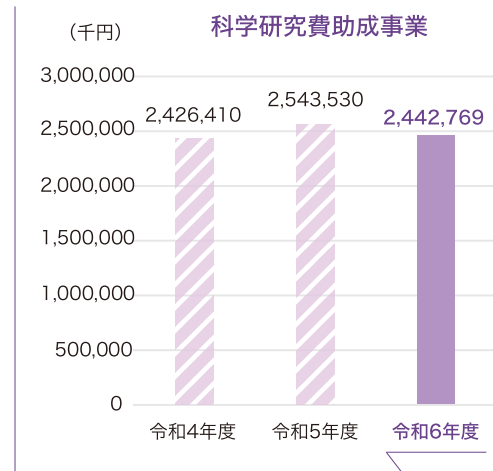
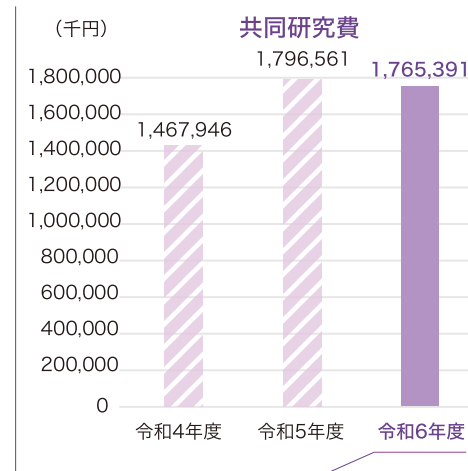
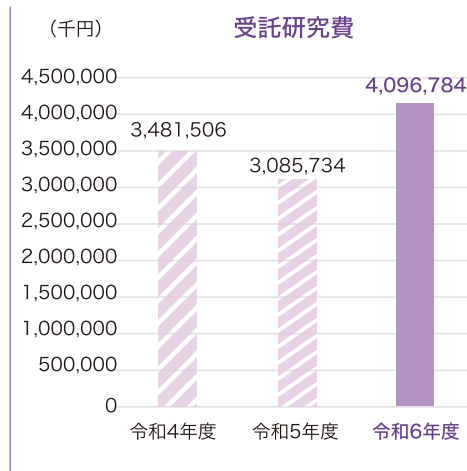
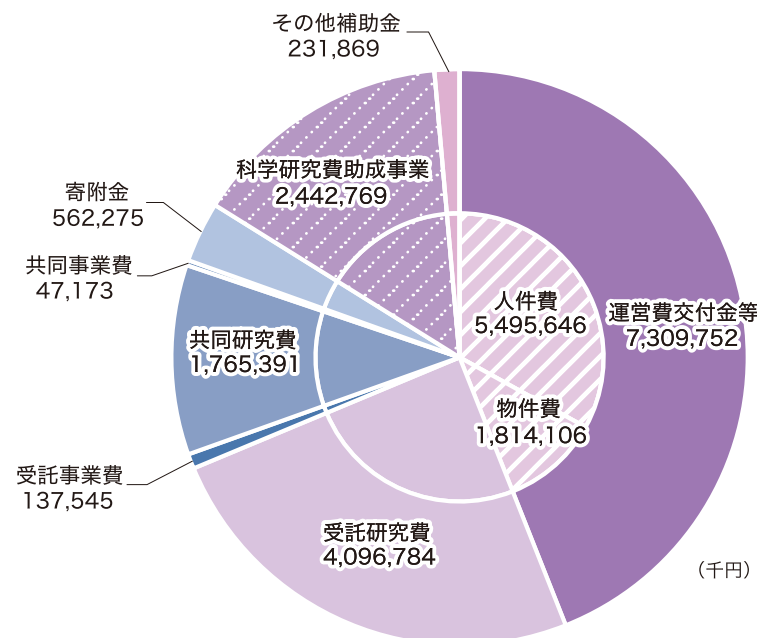


12 財政状況

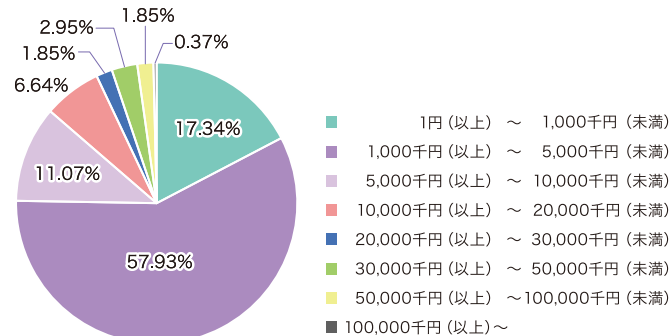
京都大学工学研究科は、京都大学の中でも最大級の予算規模を有する部局です。令和6年度事業費の概況をお示しします。

令和 6 年度事業費

区 分	金 額 (千円)
運営費交付金等	7,309,752
人件費	5,495,646
物件費	1,814,106
受託研究費	4,096,784
受託事業費	137,545
共同研究費	1,765,391
共同事業費	47,173
寄附金	562,275
科学研究費助成事業	2,442,769
その他補助金	231,869
その他大型プロジェクト	0
合 計	16,593,558



令和6年度 共同研究費 内訳（金額別）



令和6年度 科学研究費助成事業 内訳

区 分	採択件数	金額 (千円)
特別推進研究	4	381,420
新学術領域研究・学術変革領域研究(A)(B)	29	315,900
基盤研究(S)	7	296,140
基盤研究(A)(B)(C)	188	989,754
若手研究	57	84,590
特別研究員奨励費	99	89,705
その他	58	285,260
合計	442	2,442,769

教職員数

教員					
（黒字：桂地区、青字：吉田地区等）令和7年5月1日現在					
区 分	教 授	准教授	講 師	助 教	合 計
社会基盤工学専攻	14 (4)	13 (1)		13 (1)	40 (6)
都市社会工学専攻	11 (2)	9		6	26 (2)
都市環境工学専攻	6 (1)	5 (1)	2	8 (1)	21 (3)
建築学専攻	15	11	2	9	37
機械理工学専攻	11	5	3	11	30
マイクロエンジニアリング専攻	6	6	2	3	17
航空宇宙工学専攻	6	4 (1)	1	3	14 (1)
原子核工学専攻	6	2	2	3	13
材料工学専攻	9	8	1	13	31
電気工学専攻	7	5 (1)	1	3	16 (1)
電子工学専攻	7	6	1	8	22
材料化学専攻	8	7	2	11	28
物質エネルギー化学専攻	8	9	3	9	29
分子工学専攻	5 (1)	3	1	8	17 (1)
高分子化学専攻	7 (1)	3	1	9 (2)	20 (3)
合成・生物化学専攻	7	4	3	7	21
化学工学専攻	8	5	2	10	25
附属光・電子理工学教育研究センター	1	1		2	4
附属流域圏総合環境質研究センター	1	1		3	5
附属量子理工学教育研究センター	1	1			2
附属桂インテックセンター					
附属情報センター				[2]	[2]
附属環境安全衛生センター			[1]	[1]	[2]
附属工学基盤教育研究センター	1		6		7
合 計	145 (9)	108 (4) [1]	33 [3]	139 (4)	425 (17) [4]
桂地区 合 計	134 (9)	98 (4) [1]	32 [3]	123 (4)	387 (17) [4]
吉田地区等 合 計	11	10	1	16	38

注1：表中の（ ）内は大学院地球環境学堂、大学院経営管理研究部、国際高等教育院の流動教員で外数
注2：表中の〔 〕内は兼務教員で外数 注3：特定有期雇用教員を含む

職員

（黒字：桂地区、青字：吉田地区等）令和7年5月1日現在				
区 分	事務職員	技術職員	特定研究員	合 計
社会基盤工学専攻	5		1	6
都市社会工学専攻	3			3
都市環境工学専攻			3	3
建築学専攻	1		3	4
機械理工学専攻	3		2	5
マイクロエンジニアリング専攻	2			2
航空宇宙工学専攻			1	1
原子核工学専攻				
地球工学科				
建築学科				
材料工学専攻	4		3	7
物理工学科				
電気工学専攻			2	2
電子工学専攻	1		3	4
材料化学専攻	3		4	7
物質エネルギー化学専攻	4		10	14
分子工学専攻	3		2	5
高分子化学専攻				
合成・生物化学専攻	4		4	8
化学工学専攻	5		1	6
電気電子工学科				
理工化学科				
情報学科				
附属流域圏総合環境質研究センター			3	3
附属量子理工学教育研究センター	1			1
附属桂インテックセンター				
附属情報センター				
附属環境安全衛生センター	1			1
工学研究科技術室		37		37
桂地区（工学研究科）事務部・桂	110	4		114
桂地区（工学研究科）事務部・吉田	20			20
合 計	170	41	42	253
桂地区 合 計	145	41	36	222
吉田地区等 合 計	25		6	31

注：特定職員、再雇用職員、支援職員を含む

学生数

大学院

(黒字：桂地区、青字：吉田地区等) 令和7年5月1日現在

区 分	修士課程		博士後期課程								合 計	
	1 年次	2 年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 月入学	10 月入学		
			4 月入学	10 月入学	4 月入学	10 月入学	4 月入学	10 月入学				
社会基盤工学専攻	67	79	21	7	17	5	16	6	200	[18]		
都市社会工学専攻	53	54	18	8	18	6	20	10	163	[24]		
都市環境工学専攻	32	39[1]	4	7	9	8	9	8	93	[24]		
建築学専攻	71	80	11	2	11	2	17	14	190	[18]		
機械理工学専攻	60	56	10	1	10	5	18	5	154	[11]		
マイクロエンジニアリング専攻	33	33	4	1	8	1	9		87	[2]		
航空宇宙工学専攻	21	25			2		4		52			
原子核工学専攻	24	27	4	3	2		12	2	69	[5]		
材料工学専攻	42	45	7	2	3		14	3	111	[5]		
電気工学専攻	39	34	9	1	2	1	6	1	90	[3]		
電子工学専攻	34	38	6	1	3	1	8	1	89	[3]		
材料化学専攻	29	26	2	1	7		6		70	[1]		
物質エネルギー化学専攻	39	40	12	4	16	2	24		131	[6]		
分子工学専攻	36	33	11	1	7		13	1	100	[2]		
高分子化学専攻	48	44	7	1	9	2	16	1	124	[4]		
合成・生物化学専攻	33	28	6	1	5	2	10	4	82	[7]		
化学工学専攻	29	39	3		5	2	3	2	79	[4]		
合 計	690	720[1]	135	41	134	37	205	58	1,884	[137]		
桂地区 合 計	648	675[1]	128	39	131	37	191	55	1,773	[132]		
吉田地区等 合 計	42	45	7	2	3		14	3	111	[5]		

注：表中の〔 〕内は10月入学者数で外数

学部

令和7年5月1日現在					
区 分	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	合 計
地球工学科	187	187	182	229	785
建築学科	84	82	81	99	346
物理工学科	240	243	238	283	1,004
電気電子工学科	134	131	133	170	568
情報学科	93	92	92	127	404
理工化学科	238	243	243	318	1,042
合 計	976	978	969	1,226	4,149

令和7年度入学状況

区 分	修 士 課 程		
	入学定員	入学志願者	入学者
社会基盤工学専攻	58		67 [4]
都市社会工学専攻	57	146 [18]	53 [2]
都市環境工学専攻	36	41 [4]	32 [3]
建築学専攻	75	90 [3]	71 [2]
機械理工学専攻	59		60 [7]
マイクロエンジニアリング専攻	30	145 [10]	33
航空宇宙工学専攻	24		21
原子核工学専攻	23	36 [2]	24 [1]
材料工学専攻	38	53	42
電気工学専攻	38		39 [2]
電子工学専攻	35	90 [4]	34
材料化学専攻	29		29 [4]
物質エネルギー化学専攻	39		39 [2]
分子工学専攻	35	198 [21]	36 [2]
高分子化学専攻	46		48 [5]
合成・生物化学専攻	32		33 [2]
化学工学専攻	34	38 [3]	29 [1]
合 計	688	837 [65]	690 [37]

注：表中の〔 〕内は外国人留学生で内数

区 分	博 士 後 期 課 程		
	入学定員	入学志願者	入学者
社会基盤工学専攻	17	28 (6) [12]	28 (6) [12]
都市社会工学専攻	17	28 (5) [17]	26 (5) [15]
都市環境工学専攻	10	11 (1) [7]	11 (1) [7]
建築学専攻	22	15 (1) [6]	13 (1) [5]
機械理工学専攻	16	12 (1) [6]	11 (1) [6]
マイクロエンジニアリング専攻	7	5 [2]	5 [2]
航空宇宙工学専攻	7		
原子核工学専攻	9	7 [3]	7 [3]
材料工学専攻	10	10 [4]	9 [4]
電気工学専攻	10	11 [3]	10 [2]
電子工学専攻	10	8 (2) [1]	7 (2)
材料化学専攻	9	5 (2) [2]	3 (1) [1]
物質エネルギー化学専攻	11	16 (3) [6]	16 (3) [6]
分子工学専攻	10	12 [3]	12 [3]
高分子化学専攻	15	8 (1) [1]	8 (1) [1]
合成・生物化学専攻	10	7 [3]	7 [3]
化学工学専攻	7	4	3
合 計	197	187 (22) [76]	176 (21) [70]

注1：表中の（ ）内は社会人特別選抜で内数、〔 〕内は外国人留学生で内数
注2：入学志願者数と入学者数は令和6年度10月期と令和7年度4月期の合計

学部

区 分	入学定員	入学志願者	入学者		
			男	女	計
地球工学科	185	546[29]	162[3]	27[7]	189[10]
建築学科	80	334[6]	62[1]	22[2]	84[3]
物理工学科	235	859[19]	224[3]	16	240[3]
電気電子工学科	130	393[17]	126[4]	8[1]	134[5]
情報学科	90	379[2]	88[2]	5	93[2]
理工化学科	235	392[16]	198[3]	41[2]	239[5]
合 計	955	2,903[89]	860[16]	119[12]	979[28]

注1：表中の〔 〕内は外国人留学生で内数 注2：入学志願者は第1志望学科

卒業・修了状況及び学位授与者数

大学院				博士学位授与者		
				令和7年5月1日現在		
区 分	修士課程		博士 後期課程 令和7年5月1日現在 研究指導認定 退学者累計	区 分 旧制	大正9年6月以前の 学位令によるもの	工学博士
	令和6年度	累 計				
工業化学専攻		1,263	212	新制	大正9年7月以降の 学位令によるもの	1,380
石油化学専攻		758	137		大学院博士課程修了者	5,400
合成化学専攻		582	163		論文提出によるもの	4,217
機械工学専攻		1,154	78	合 計		11,039[28]
物理工学専攻		462	38	注：表中の〔 〕内は推薦によるもので内数		
機械物理工学専攻		212	6	学部		
精密工学専攻		860	56	区 分	令和6年度	累 計
冶金学専攻		634	47	土木工学科		3,222
金属加工学専攻		567	43	機械工学科		2,122
エネルギー応用工学専攻		57	2	電気工学科		2,112
航空工学専攻		388	32	鉱山学科		357
電子物性工学専攻		227	15	資源工学科		1,073
電気工学第二専攻		730	67	冶金学科		1,532
電子通信工学専攻		110	2	工業化学科		2,125
数理工学専攻		785	84	建築学科		2,207
情報工学専攻		508	44	燃料化学科		443
応用システム科学専攻		342	10	石油化学科		1,296
土木工学専攻		1,996	143	化学機械学科		295
交通土木工学専攻		598	14	化学工学科		1,244
土木システム工学専攻		240	23	高分子化学科		1,225
資源工学専攻		681	40	繊維化学科		250
衛生工学専攻		620	54	応用物理学科		116
環境工学専攻		205	8	電子工学科		1,606
環境地球工学専攻		501	30	航空工学科		810
建築学第二専攻		514	51	原子核工学科		714
生活空間学専攻		159	17	衛生工学科		1,390
材料化学専攻	28	863	41	数理工学科		1,448
物質エネルギー化学専攻	37	1,115	78	精密工学科		1,379
分子工学専攻	32	1,162	72	合成化学科		1,259
高分子化学専攻	41	2,321	298	電気工学第二科		1,447
合成・生物化学専攻	27	928	94	金属加工学科		1,220
化学工学専攻	32	1,747	132	機械工学第二科		505
原子核工学専攻	21	1,306	170	交通土木工学科		1,284
材料工学専攻	41	1,139	25	建築学第二科		1,149
電気工学専攻	40	1,759	118	情報工学科		1,037
電子工学専攻	31	1,504	102	物理工学科		480
建築学専攻	78	2,621	216	(新) 工業化学科		6,268
社会基盤工学専攻	76	1,350	68	(新) 物理工学科	250	6,351
都市社会工学専攻	51	1,179	56	電気電子工学科	137	3,434
都市環境工学専攻	33	1,093	54	情報学科	94	2,309
機械理工学専攻	53	1,089	60	地球工学科	185	4,641
マイクロエンジニアリング専攻	37	512	34	(新) 建築学科	78	2,049
航空宇宙工学専攻	20	592	35	理工化学科	220	220
合 計	678	37,433	3,069	合 計	964	60,619

外国人留学生・招へい外国人学者

外国人留学生受入状況令和7年5月1日現在

国・地域	学 部	大学院		合 計
		修士課程	博士後期課程	
アジア（17）				
インド共和国	1		7	8
インドネシア共和国	12	2	18	32
カンボジア王国	1			1
シンガポール共和国	2		1	3
スリランカ民主社会主義共和国	1		4	5
タイ王国	3	5	10	18
大韓民国	12	5	19	36
台湾	9	7	13	29
中華人民共和国	60	67	154	281
ネパール			1	1
パキスタン・イスラム共和国			2	2
フィリピン共和国	3	2	6	11
ベトナム社会主義共和国	2	1	7	10
香港		1	2	3
マレーシア	2		4	6
ミャンマー連邦共和国	6		4	10
モンゴル国	1			1
中東（3）				
イラン・イスラム共和国			3	3
オマーン国			1	1
シリア・アラブ共和国			1	1
アフリカ（8）				
アルジェリア民主人民共和国			2	2
エジプト・アラブ共和国			3	3
エスワティニ王国			1	1
カメルーン共和国			1	1
ケニア共和国			1	1
タンザニア連合共和国			1	1
チュニジア共和国			2	2
マダガスカル共和国			1	1
大洋州（2）				
オーストラリア連邦		1		1
ソロモン諸島			1	1
北米（2）				
アメリカ合衆国	1		1	2
カナダ	2	1	1	4
中南米（5）				
エルサルバドル共和国			1	1
コロンビア共和国			1	1
チリ共和国			1	1
ブラジル連邦共和国	1		3	4
ペルー共和国		1		1
欧州（NIS諸国を含む）（6）				
ウズベキスタン共和国			1	1
スペイン王国			1	1
セルビア共和国			1	1
ドイツ連邦共和国			1	1
フランス共和国			1	1
ポルトガル共和国			1	1
合 計（47カ国・地域）	119	93	284	496

外国人研究留学生等受入状況令和7年5月1日現在

国・地域	研究生	特別聴講学生	特別研究学生	短期交流学生	合 計
アジア（8）					
インド共和国	1		2		3
インドネシア共和国	1				1
大韓民国	1				1
台湾	1				1
中華人民共和国	4	1	2		7
フィリピン共和国	1				1
ミャンマー連邦共和国	1				1
モンゴル国	1				1
アフリカ（3）					
エジプト・アラブ共和国	1				1
タンザニア連合共和国	1				1
モザンビーク共和国	1				1
中南米（2）					
エルサルバドル共和国	1				1
ペルー共和国	1				1
欧州（NIS諸国を含む）（7）					
イタリア共和国				1	1
スイス連邦		1			1
スペイン王国		1			1
ドイツ連邦共和国		1	1		2
ノルウェー王国		4			4
フランス共和国	1	5	3	4	13
ロシア連邦		1	1		2
合 計（20カ国・地域）	17	14	9	5	45

招へい外国人学者等受入者数令和6年度

国・地域	招へい外国人学者	外国人共同研究者	外国人研究員	合 計
アジア（7）				
インド共和国	1	5		6
インドネシア共和国	1	1		2
タイ王国		2		2
大韓民国	1	2		3
台湾		4		4
中華人民共和国	8	21		29
ベトナム社会主義共和国		1		1
中東（1）				
イラン・イスラム共和国		1		1
アフリカ（2）				
エジプト・アラブ共和国	1			1
エチオピア連邦民主共和国	1	4		5
大洋州（1）				
オーストラリア連邦	1			1
北米（2）				
アメリカ合衆国	3		1	4
カナダ	1			1
中南米（2）				
ブラジル連邦共和国		1		1
メキシコ合衆国		1		1
欧州（NIS諸国を含む）（10）				
イタリア共和国	2	1		3
英国	2	1		3
オーストリア共和国		1		1
スウェーデン王国		2		2
スロバキア共和国		1		1
ドイツ連邦共和国	2	7		9
フィンランド共和国		1		1
フランス共和国	3	2		5
ベルギー王国		3		3
ポーランド共和国			1	1
合 計（25カ国・地域）	27	62	2	91

研究生

研究生等受入状況令和7年5月1日現在

区 分	研究生	研修員等	特別聴講学生	特別研究学生	短期交流学生	合 計
社会基盤工学専攻	2 [2]		2 [2]	1 [1]		5 [5]
都市社会工学専攻	3 [3]	1				4 [3]
都市環境工学専攻	4 [4]					4 [4]
建築学専攻	9 [4]	1	9 [9]	6 [3]	1 [1]	26 [17]
機械理工学専攻	1 [1]	1 [1]	2 [2]			4 [4]
マイクロエンジニアリング専攻	2 [2]					2 [2]
航空宇宙工学専攻						
原子核工学専攻		1 [1]				1 [1]
材料工学専攻						
電気工学専攻		1 [1]		1 [1]		2 [2]
電子工学専攻	1 [1]			1 [1]		2 [2]
材料化学専攻		1				1
物質エネルギー化学専攻	1	1		1 [1]		3 [1]
分子工学専攻						
高分子化学専攻				1		1
合成・生物化学専攻		2				2
化学工学専攻		1		2 [2]		3 [2]
地球工学科						
建築学科						
物理工学科						
電気電子工学科						
情報学科			1 [1]			1 [1]
理工化学科			1 [1]		4 [4]	5 [5]
合 計	23 [17]	10 [3]	15 [15]	13 [9]	5 [5]	66 [49]

注1：表中の〔 〕内は外国人で内数
注2：研修員等は研修員、受託研究員等、日本学術振興会特別研究員（PD）等を含む

蔵書数

蔵書数及び所蔵雑誌種類数令和7年5月1日現在

図書室名等	蔵書数			所蔵雑誌種類数		
	和 書	洋 書	合 計	和 書	洋 書	合 計
桂図書館	126,025	194,365	320,390	2,473	5,452	7,925
工学研究科・工学部北図書館	10,502	1,423	11,925	24	4	28
工学研究科・工学部南図書館	27,250	26,858	54,108	827	775	1,602
合 計	163,777	222,646	386,423	3,324	6,231	9,555

アクセスマップ

Web で更に詳しいアクセスを確認する



桂キャンパス

1 C クラスター階段から臨む早朝の風景



3 A・B クラスターを繋ぐプロムナード



4 A クラスターコミュニケーションスクエア



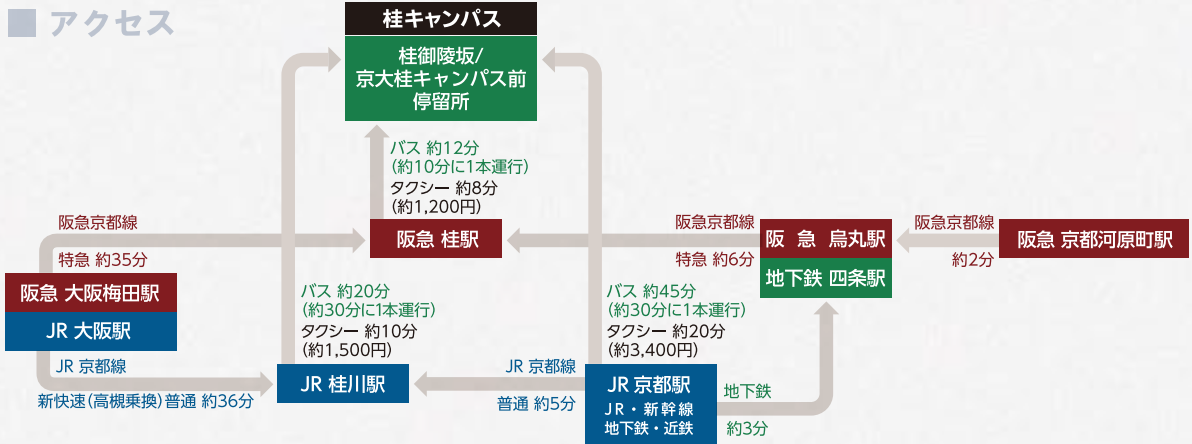
2 桂図書館



桂図書館の隣には、バスケットゴールやストレッチ用の健康遊具等が設置されています。



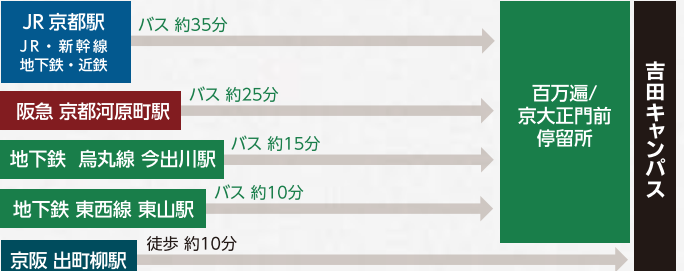
アクセス



吉田キャンパス



アクセス



5 百周年時計台記念館



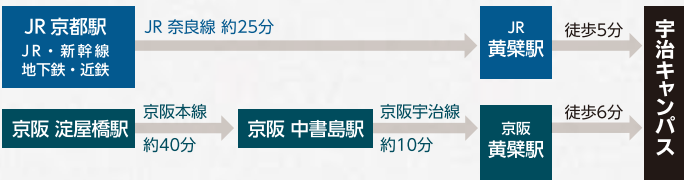
6 総合研究 9 号館



宇治キャンパス



アクセス



7 正門



8 宇治おうばくプラザ

